

大阪府にて、院長と小川先生が教育講演、学会発表をしました。また院長と山木先生、鐘ヶ江先生が専門誌の歯科特集を監修、執筆しましたので紹介します。



## 第40回動物臨床医学会記念年次大会（歯科分科会）【会場】大阪国際会議場

### 【教育講演】

1才未満からの歯科治療

網本 昭輝

### 【症例検討】

ダックスフントの上顎犬歯歯周病の特徴的な進行パターン

小川 祐生

光誘導蛍光定量法（QLF法）を応用した歯垢・歯石検査用ライトの開発

網本 昭輝

おつかれさま



### うまく付き合う 猫の歯肉口内炎(尾側口内炎)

CAUDAL STOMATITIS

後編

【監修】網本昭輝 アミカペットクリニック

歯肉口内炎（尾側口内炎）の特集前半の発行の準備が終わった頃、フロリダ州オーランドで33rd Annual Veterinary Dental Forum（9月27日～10月1日）が開催され参加した。開催期間中に猫の慢性歯肉口内炎について、アメリカの獣歯科専門医のDr. Forceの講演があり、興味深く拝聴した。講演内容は、原因、症状、治療に関しては、先月号の特集を要約したような内容であった。講演の内容をすべて転載できなかったが、スライドや抄録の内容を踏まえて、特集で残っていない部分があった。歯肉炎の痛みを緩和する1つのプロトコルを、そのプロトコルとして、抜歯後、歯の周りに2分、口の周りに2分30秒、口の中に30秒を週に3回を2週間、その後週に2回を2～4週間続けるという方法を説明された。痛みと炎症を取り除くのに有効なことだったので追加記載する。

また、講演中、難治性歯肉口内炎（歯肉をしても改善が得られないもの）について、ステロイド剤の使用よりも、シクロスポリンやインターフェロンの使用を薦められた。インターフェロンについてはアメリカでは使用が難しい状況であるが、ヨーロッパや日本では使用され、治療効果が認められていると講演されていた。そしてインターフェロンの使用に関する代表的な論文としてDr. Hennekの論文と松本らが発表した英語の論文（今回の特集の前編でこの論文の内容を日本語で要約した記事を紹介している）を紹介され、大変勉強になった。

特集の前編では歯肉口内炎（歯肉口内炎）の原因、検査、診断、治療、また、インターフェロンでの治療の有効性の詳細などについて記載した。後編では、飼い主のやりとりや、実際の治療法について各先生方へ紹介していた。また、尾側口内炎の名称についての説明は前編の巻頭言（10月号 No.171 p.7）に記載してあるので参考にしていただきたい。

## 専門誌「CLINIC NOTE 2019.11月号」

### FEATURE ARTICLE うまく付き合う 猫の歯肉口内炎(尾側口内炎):後編

### 症例紹介: 内科的アプローチ

猫の歯肉口内炎(尾側口内炎)に対する内科的治療

鐘ヶ江晋也、山木誠也 アミカペットクリニック

はじめに

猫の歯肉口内炎(尾側口内炎)の治療は口腔内から考えられる抗原刺激を除去することが目標とされており、そのための内科的治療、外科的治療が行われている。しかし、完治を望む場合は外科的治療を行うことが最善

症例2 外科的治療後に再発した歯肉口内炎(尾側口内炎)の症例

図2 第91頁目(初診から3カ月目の口内)

## CLINIC NOTE

JOURNAL OF CLINICAL DAILY TREATMENT FOR SMALL ANIMALS

### CAUDAL STOMATITIS

特集 うまく付き合う猫の歯肉口内炎(尾側口内炎):後編

172

Interzone